

会議記録（要旨）

会議名	令和3年度 第1回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和3年7月15日（木） 午前10時～11時40分
場所	中央図書館 地下ホール
出席者	委員 前田委員(傍聴：東京学芸大学 学生6名)、スギヤマ委員、渋川委員、 中山委員、小林委員 欠席者 3名
	事務局 中央図書館館長、中央図書館次長、事業係(辻係長)、資料相談係(寺崎係長)、 企画運営係(佐川係長、早川主査、芥川)
配付資料	令和3年度 第1回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 資料1 令和3年度 杉並区子ども読書活動推進懇談会 名簿 資料2 令和3年度 杉並区子ども読書活動推進進捗管理票(第1四半期) その他 各委員持ち寄り資料
<p>1. 開会 中央図書館長 挨拶</p> <p>2. 令和3年度の委員について（資料1） 家庭文庫代表が、バンビぶんこ 澁川慧子さん、 小学校校長代表が、八成小学校 淵上裕美子さんになった。</p> <p>3. 子ども読書活動推進 進捗管理票の報告について（資料2） 事務局：今年度第一四半期について、図書館を中心に説明する。 ○学校図書館について 座席に仕切り板を置いて開館した。 学校司書の研修はオンラインやオンデマンドで行う。 学校図書館サポートデスクが、全国学校図書館協議会の学校図書館賞を受賞した。 情報活用授業コンクールで高東小、宮前中、松浜中が優秀賞を受賞した。 ○杉並区立図書館について 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があるが、感染防止対策を講じながら行事を実施した。児童対象の行事は予約制としているが、すぐに満員になる。 地域住民の息抜きの場所になっているように思われる。</p> <p>4. 子ども読書活動推進計画改定について 事務局：今年度は杉並区の新たな基本構想策定とともに、子ども読書活動推進計画の改定も進める。改定作業は今年度中に行うが、最終的な決定は来年4月以降になる。そのため冊子の完成も来年度になる。改定にあたってはまず計画素案を作り、懇談会や図書館協議会で意見を聞きながら完成させていく。今年3月に出された東京都第4次子ども読書活動計画を参考にする。</p>	

前回の懇談会でいただいたご意見は、読書バリアフリー法に関すること、GIGAスクール構想におけるタブレット端末の活用と、読書や調べ学習との関係についてなどであった。次期計画にも盛り込む課題だと考えている。次回懇談会で素案を検討したい。

委員： 同席している東京学芸大学の学生たちが、授業で「杉並区子ども読書活動推進計画」についての研究をしたので、ここで発表する。

【東京学芸大学 教育学部生涯学習コース 学生の発表内容】(概要)

「杉並区子ども読書推進計画」について、以下の提案を行う。

- 「家庭地域等における読書活動の推進」
 - ・人形劇や工作などさまざまな行事を行っているが、コロナ禍で実施回数が少なくなっている→家庭でも受講できるオンライン講座を対面と併用する。
 - ・読み聞かせ動画ファイルを配信する。
 - ・あかちゃんタイムを拡充する。
- 「図書館における読書活動の推進」
 - ・定期的に学校と連絡を取りあえる体制づくりが必要である。
 - ・ボランティアとの協働に関する情報共有を行い、各館の取り組みを明確にする。
- 「読書活動に関する情報の発信」
 - ・学校で、区立図書館の案内地図、講座案内、図書館だよりを目立つ場所に置いたり、配布をしたりする。
 - ・学校図書館の一角に「区立図書館にはこんな本がある」コーナーをつくる。
 - ・図書館の児童図書コーナーに図書館ホームページについてのポスターを掲示する。
 - ・図書館を利用しない子どもたちに向け、広報誌に図書館ホームページについての情報を載せる、学校図書館や授業などで図書館ホームページ利用についての指導をする。

5. その他自由討議・情報提供

委員： ・配布資料「情報を読み取り考えを深める～杉並区立桃井第三小学校（教育家庭新聞HP記事）」桃井第三小の学校図書館でタブレット端末を使い授業をしているという記事の紹介。
・配布資料「学校図書館の育て方（静岡新聞連載記事）」読書をベースにした学習支援と、GIGAスクール構想について取り上げ、姫路市立小中学校の取組を紹介。
・2階のYAルームは、テーマ展示や、中高生が選ぶ「一箱本棚」など、YAによる棚づくりをしてもいい。
・各学校での子どもたちの学習成果を見たい。学校の許可があれば、図書館展示にぜひ取り入れてほしい。地域資料を市民と一緒に作っていくような、参加型で考えてほしい。

委員： ・各中学校の学校図書館の充実はすごい。YAのヒントを求めるなら中学校の図書館からだ。中学校ともっと連携していくのがYAを取り込んでいく近道だと思う。

- ・配布資料「杉聴協ニュース」

杉並区では手話言語条例の制定に向けて取り組みを進めている。手話は福祉ではなく言語として位置づけられるべきだ。手話言語条例について、聴者もろう者もみんな考えてほしいので、この「杉聴協ニュース」を小中学校に配って説明している。

- ・葛飾区立図書館のワークショップに、障害がある子も参加した。受け入れることができる図書館はすばらしい。

- ・宮前図書館でワークショップ「かるたをつくろう！かるたをつろう！」を行う。感染防止対策のためかるた取りではなく、密にならない工夫をしてかるた釣りとなった。

6. 事務連絡（次回開催予定）

事務局：これから、子ども読書活動推進計画の改定作業に入る。次回懇談会は、改定素案ができるタイミングにあわせて開催する。